

# 書塾の仲間たち

第 279 回

## 花翠書道教室（大阪府大阪市）



### ●書塾からひとこと●

「自身が学んできたことを子どもたちにも伝えたい」との思いからこの書写教室を開いて、早四年になります。教室は静かな住宅街にある実家の一室を借りて開いており、少人数制で一人ひとりと向き合い、できるだけ丁寧に指導することを心がけています。

学年に関係なく、習い始めて三カ月から一年ほどはじっくり時間をかけて、平仮名の基本から学んでもらっています。とりわけ筆順については、漢字も平仮名も間違いが多いので、正しい筆順が身に付くようにと自作の教材づくりに腐心しています。最近「書き順、これで合っていますか？」という質問も増え、子どもたちの意識が変わってきたように思います。

日々のお稽古そのものは地味な所作の繰り返しです。だからこそ時が経つにつれ、確実に忍耐力がついてくるものだと思います。何度も練習し、上手にかけた時の嬉しそうな顔、喜ぶ姿が本当に愛おしく、たくさんの幸せを子どもたちから与えてもらっていると感じています。

月刊「書写書道」の課題を中心に、高円宮杯大展望会への参加や学校の書き初めの宿題などにも積極的に取り組んでいます。

いつも元気いっぱい「こんにちは！」と教室にやってくる子どもたち。帰りの際には「ありがとう」ございました。さようなら」としつかり挨拶することも定着してきました。

教える立場になり、私自身もこれまで以上に自己研鑽が必要だと感じましたので「書写技能検定一級」を目標に取り組んだ結果、硬筆、毛筆ともに一級を取得することができました。また芸術作品にも挑戦したいと思っていましたところ、日比野博鳳先生とご縁をいただき、一昨年より「かな書之美」のご指導を賜っております。これらの経験すべてを、生徒の皆さんに伝え、子どもたちにいつの日か「書道習って良かった」と思ってもらえるよう、より一層精進してまいります。

花翠書道教室 小林花翠

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



自分のため、読んでくれる人のために

静岡県浜松市立内野小学校三年 古橋 あいな

小学二年生の夏休みに体験した書道が、私に字を書く楽しさを初めて教えてくれました。家に帰ってすぐに「すごく楽しかった。やってみたい」と母に伝えると、「自分がやりたいことを見つけられて良かったね」と一緒に喜んでくれて、私は書道を習い始めました。

教室では、一緒に習っているお兄さんやお姉さんの上手な字にいつも憧れています。今はまだ、先生のお手本通りに書くだけで精いっぱいですが、私もいつか感動してもらえそうな字が書けるようになってほしいという夢ができました。

書道を始めてからは、普段の自分の姿勢にも気をつけるようになりました。背筋を伸ばすと気持ち引き締まり、自然とやる気が湧いてきます。また、丁寧に書く字には、それを見てくれる人への感謝の気持ちが込められることにも気づきました。

この大切なことに気付いてから、今までは何げなく書いていた学校のプリントやノート、友達への手紙も、相手のことを思い浮かべながら心を込めて書くようになりました。すると、先生や友達から「字がきれいだね」「上手だね」と褒められる機会が増え、自分でも自信がついたように思います。

「十人十色」という言葉があるように、人の書く字はそれぞれ違います。私の字は私にしか書けない唯一のものです。だからこそ、これからも自分のため、そして読んでくれる人のために、字を書く時間を大切にしていきたいです。何よりも楽しみながら書道を頑張る、大人になった自分がどんなすてきな字を書いているのか、今からとてもワクワクしています。

## 私と書写書道 第279回



学校での行動も積極的にになりました

静岡県浜松市立都田南小学校六年 渥美 乃愛

席書大会をきっかけに始めた書道を通して、私は字の上達だけでなく、自分の内面や学校生活においても大きな成長を実感しています。

以前は勉強中、雑音があると集中できませんでしたが、書道を始めてからは自分に合うように環境を整えるようになり、集中して取り組めるようになりました。この「集中力」のおかげで、書き取りやドリルの時間も好きになり、ノートもきれいに書けるようになりました。

また、字を書くことに対する自信がついたことで、学校での行動も積極的になったと思います。これまで自信がなくて避けていた黒板への板書も、今では進んで手を挙げて取り組んでいて、委員会の黒板書記にも挑戦しています。最近では、今まで意識していなかった鉛筆の持ち方も気にするようになり、さらに丁寧に字を書くことを目指すことを意識するようになりました。

現代はパソコンなどのデジタル化が進んで、「手で文字を書く機会が減っている」と先生から聞きました。たとえ、インターネットが発達しても自分の手で書くことは本当に大切なことだと思っています。自分の手で実際に書くことで、内容がしっかりと頭に入り、記憶にも残りやすくなると私は思います。

これからの目標は、習ったことを通常の生活で生かし、自分自身で字をきれいに書くコツを考えながら丁寧に書く習慣を続けることです。そして、席書大会の練習のときのような自分が納得できる素晴らしい字がいつでも書けるように、これからも努力をします。